

# 全特協 会報

## 国の特別支援教育の更なる発展に向けた本協会の方針について

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

会長 喜多 好一



第59回全国研究協議会千葉大会が、令和4年8月4日(木)に千葉市ポートプラザちばにて、オンラインと誌上発表の併用により開催され、盛会のうち終わりました。これも本大会の開催にあたり、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県特別支援学級・通級指導教室設置校校長会の皆様方のお力添えをいただいたお陰です。厚く御礼を申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 山田泰造様の祝辞、植草学園短期大学教授 佐藤慎二様の記念講演には、全国約960名の会員の皆様にもオンラインにて参加いただきました。誌上発表で紹介されている6名の校長先生方の特別支援教育を学校経営の中核に据えた優れた実践研究は、私たちの特別支援教育に係る専門性の向上に資するものとなり、実り多い大会となりました。

さて、4月以降、国の特別支援教育に係る動きが昨年度以上に活性化しています。大きくは次の2点です。

- 1 「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議」報告(令和4年3月31日)
- 2 特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)(令和4年4月27日)

1の報告につきましては、報道等でも取り上げられましたが、特別支援教育経験者を増やす具体的な策として「全ての採用教員におおむね10年目までの期間内において特別支援学級の担任を複数年経験すること」に加え、校内(通常と通級、通常と特学)の教師間による交換授業や研究授業の実施、担任外の教師による特別支援学級の専科指導、通級による指導の教員による通常の学級におけるTT指導など、採用、育成段階における方針が明確に示されました。また、「管理職は、学校全体の課題として特別支援教育が取り組まれるよう、学校教育目標や目指す教師像など学校経営方針や学校経営計画において特別支援教育に関する目標を適切に設定するとともに、各学校が行う学校評価の中核となる評価項目・指標として必ず盛り込むこと」と記されました。特別支援教育を校内で推進する校長の在り方にも目が向けられています。本協会には、文部科学省とともに、これらの方針を強く推し進めていく責務があると強く感じています。本報告につきましては、全国副会長研修会のテーマとして取り上げ、全国の好事例を共有するとともに、課題等についても協議しています。(第一回、第二回全国副会長会概要は全特協HPで御参照ください。)

2の通知につきましては、交流及び共同学習は、インクルーシブ教育システムの理念の構築に向けて大きな意義を有し、「交流」の側面と「共同学習」の側面を分かちがたいものとして捉えて推進していくことが必要であるとした上で、特別支援学級に在籍している児童生徒が、大半の時間を交流及び共同学習として通常の学級で学んでいる場合には、学びの場の変更を検討するべきであると方針を打ち出しました。具体的には、特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安として特別支援学級において児童生徒の一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業を行うこととしています。これまでの特別支援学級の教育課程の在り方が問われていると感じています。本件は、9月に国連の障害者権利委員会が日本に行った勧告にも触れられていますので、今後の動向を注視していきたいと思っております。

本通知に示された通級による指導の形態については、現在、「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」にて、従前の保護者の引率による通級形式から自校あるいは巡回方式への変更に向けて検討が進められています。本会議では、年末ごろには公表される通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の調査結果を見越して、様々な支援策を協議していく予定です。引き続き、本協会として特別支援教育の充実と発展に向けて、国へ建設的な意見を届けながら、連携してその実現に力を尽くしていきたいと存じます。どうか、更なる御理解と御協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

## 第59回 全国研究協議会 千葉大会

千葉大会実行委員長 安藤 深佳子



ここ2年連続で誌上開催となっていました。令和4年度の全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会第59回全国研究協議会千葉大会は、オンラインライブ配信(ウェビナー方式)で令和4年8月4日(木)に開催いたしました。

大会主題を「共生社会の形成に向けて、一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力をはぐくむ特別支援教育の推進と充実」とし、会場には御来賓の皆様及び本部役員、全国副会長など最少限の人数でお集まりいただき、「ホテルポートプラザちば」よりオンラインでのライブ配信を行いました。全国各地から約1,000名の校長先生方がリモートで御参加され、これまでとは違った形での熱い研究協議会となりました。

全国理事及び全国各地から御参加いただきました校長先生方のおかげで、無事に千葉大会を終えることができましたことを、心より感謝申し上げます。

以下、大会の概要について御報告いたします。

### <開会行事>

|       |  |                               |
|-------|--|-------------------------------|
| 主催者挨拶 | 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会<br>第59回 全国研究協議会千葉大会 実行委員長       | 副会長 大関 浩仁<br>安藤深佳子            |
| 来賓祝辞  | 文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課長<br>千葉県教育委員会 教育長<br>千葉市教育委員会 教育長 | 山田 泰造 様<br>富塚 昌子 様<br>磯野 和美 様 |

### <記念講演>

「共生社会の形成に向けた『特別』ではない支援教育」

ー通常の学級、特別支援学級、通級指導教室の実践と連携ー

植草学園短期大学こども未来学科 主任教授 佐藤 慎二 様

### 《講演内容抜粋》

#### I 現在の学習指導要領の方向性

1 目標として 「何を知っている」から実社会・実生活で「何ができるようになるのか？」へ  
通常の教育・特別支援教育の枠を超えて確認された目標 実社会・実生活の中で使えてこそ「生きる力」  
である！

2 内容 「何を学ぶのか？」

実践1 「遊び場づくりーお客さんを招待しよう！」 実践2 「〇〇市PR 弁当をつくろう！」

## II 「力を付ける教育」から「力を使いたくなる教育」への転換

- 1 力はいつ身に付くのか？力が身に付かない教育の現実。  
「学習したことの意義や価値を実感できるようにする」（総則・本文）
- 2 力を使いたくなる・力が身に付く象徴的な教育活動をイメージして「特別の教育課程」を！  
「させられる努力」ではなく、自分から「する」努力だから力が身に付く！
- 3 子どものよさやできることが発揮される学校・学級生活に！学校は病院ではない！  
＜徹底した逆転の発想で！＞

※問題を起こしていない状態は「頑張っている状態」と受け止める「見方の転換」を！

## III 知的障害のある子ども・知的障害を伴う自閉症の子どもの支援の原則

- 1 社会生活能力と知的能力は一致しない！
- 2 知的障害と「自立と社会参加」－「実際」「生活」「具体」の重視－
- 3 「力(思考・判断・表現)を使いながら、力(知識・技能)を身に付ける」知的障害教育

## IV 自閉症・情緒障害特別支援学級、発達障害通級指導教室での支援の原則について

- 1 教育課程の中心「自立活動」  
…教科書も何もない「謎の自立活動」…通常の学級担任がいきなり指名されても???…  
(1) 新学習指導要領・総則本文より (2) 自立活動の目標 (3) 自立活動の内容 (4) 何をどうするか？  
実際の学習活動は・・・ (5) どのような授業をするのかは担任に任されている。
- 2 「自立活動」の授業づくり(例)－感情コントロールの支援に焦点を当てて－  
数的に最も多く、一番気付きにくい「読み困難」。行動上の課題を抱える子どもの背景に「読み困難」があることも多い。教師との信頼関係と気付きが何より大切！

## V 実践事例に学ぶ(※「交流及び共同学習」への発展)

- 1 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級と知的障害特別支援学級合同の実践事例
- 2 共生社会を目指す「特別」ではない支援教育としての交流及び共同学習

## VI 特別支援学級・通級指導教室を支える

- 1 新任の先生方をどう支えるのか－市町村単位より小さなスケールの実践的な研修会を
- 2 事故対応から事前支援の校内支援体制へ「気になる」子どもに気づく就学時検診を！  
\* 幼児期に保護者了解が得られているケースは「切れ目ない支援体制」が構築されつつある  
\* 「気になる」子どもへの対応が遅れない体制づくりを！ 行動の把握－行動観察項目の設定

## VII 保護者との連携、そして、卒業後へ

- 1 当てにされる心地よさを体感する「三間」(サンマ)の活動づくり 仲(間) 空(間) 時(間)
- 2 保護者の決意と覚悟に寄り添う
- 3 "親は一生 教師は一時" "教師の一時は子供が二度と戻れない一時"

90分間の熱い思いのこもった、内容の濃い講演内容でした。実施後のオンラインを利用したアンケートでは、97.5%の校長先生方が「満足できる内容であった」と御回答いただきました。主催者側として、とてもうれしいアンケート結果となりました。

### <閉会行事>

閉会行事では、次年度開催の愛知県理事の半田憲生様から次年度開催の御案内と決意の御挨拶をいただき、全日程が終了しました。

詳細につきましては、令和5年3月発行予定の全特協令和4年度研究紀要に掲載予定です。

### <実践報告・研究協議>

研究協議につきましては誌上開催といたしました。実践報告、講評等をまとめた千葉大会の研究紀要を10月初旬頃までにはお届けできるよう準備を進めております。今しばらくお待ちいただければと思います。

令和4年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会  
第37回 関東甲信越地区研究協議会 群馬大会

1. 研究主題 「学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」
2. 期 日 令和4年11月18日(金) 9:00～12:00
3. 会 場 Gメッセ群馬
4. 日 程
  - (1) 開会行事 9:00～9:10  
主催者挨拶 来賓祝辞
  - (2) 記念講演 9:10～10:25  
演 題 「子供たちの多様な教育的ニーズに応えるために」  
講 師 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
発達障害教育推進センター上席総括研究員(兼)センター長  
笹森 洋樹 氏
  - (3) 実践発表 10:35～11:25  
実践発表1 「子供の困難さに寄り添ったことばの教室と通常学級の担任の連携に係る校長のマネジメント」  
－ 「どう伝わり」「何が理解されたか」を視点にした活動の工夫－  
大田市立尾島小学校 木村 隆美 校長  
実践発表2 「発達障害等のあるなしに関わらず一人ひとりが活躍できる指導・支援の方法及び校内の支援体制について」  
伊勢崎市立広瀬小学校 中村 秀樹 校長  
実践発表3 「群馬県立高等学校における通級指導について」  
群馬県教育委員会特別支援教育課  
池田 克弘 課長補佐 (指導係長)
  - (4) 指導助言 11:25～11:50  
国立大学法人 群馬大学 共同教育学部 教授 霜田 浩信 氏
  - (5) 閉会行事 11:50～12:00

☆オンライン、動画配信にて開催です。

大会参加申込締切日は9月22日でしたが、お問合せは大会事務局までお願いします。

(大会の最終案内は全特協のホームページにも掲載しています。)

【大会事務局】昭和村立東小学校 校長 中島 潔

〒379-1202 群馬県利根郡昭和村糸井1287番地

TEL 0278-22-2516 FAX 0278-22-7288

第3回全国理事研究・研修協議会の御案内

- ・期 日 令和5年1月27日(金)
- ・会 場 奈良県 ホテルリガール春日野 (奈良県奈良市法蓮町757-2)
- ・内 容 全国副会長研修会 (対面形式) 9:00～12:00  
全国理事研究・研修協議会 (オンライン形式) 13:30～15:50
  - ・開会行事
  - ・研究協議
  - ・本部より

☆ 本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いします。  
東京での定期総会及び千葉県での全国研究協議会に、多くの方々に御参加いただきました。  
ありがとうございました。